

## 標準化フォーラム第2回ワークショップ 東京で開催される

マイクロマシンセンターでは、先端研究と平行して標準化に取り組んでいます。これまでマイクロマシンがマルチディシプリナリーなことから多分野にまたがる用語の統一、新しく開発されるマイクロデバイスの性能を比較できるようにするための計測評価法の標準化の2つの分野で調査研究を行い、それぞれテクニカルレポートとしてまとめています。一方で標準化にあたっては国際的な調和が不可欠であり、日本の貢献による国際標準化の推進を目指してきました。この一つがインターネット上での標準化フォーラムの創設と運営です。フォーラムは1998年スタートしています。元々ネット上の活動を基本にしていましたが、時折 face-to-face のミーティングを持つことになっており、この程第2回フォーラムワークショップを東京で開催しました。

標記のワークショップ (2nd Workshop on Standardization for Micromachine/MST/MEMS) は、佐藤壽芳中央大学教授を議長として、7月23日東京都中小企業振興公社において開催されました。

この第2回ワークショップは、2001年3月、ロンドンで開催の第1回ワークショップでの申し合わせにより、2001年10月に米国ワシントンで開催する予定でしたが、直前の9月11日にニューヨークで発生したテロ事件の影響により、このワークショップは開催を延期されていました。今回、当センターが、国際機関に標準化提案を計画している薄膜試験片のRRT (Round Robin Test) の成果紹介と合わせて、標準化フォーラム第2回ワークショップを東京で開催することにしました。このワークショップには

海外から参加の4名を含む計13名が参加しました。

午前中は、米国、ドイツ及び日本の標準化活動等、第1回ワークショップ後の活動レビューと、次回の第3回ワークショップに向けての今後の活動計画が検討されました。特別参加の国際標準化学研究所の大和田邦樹氏からは、当センターが1998年に発行したテクニカルレポート「マイクロマシン技術専門用語 (220語)」を、IEC/TC47に提案したことが報告されました。大和田氏はIEC/TC47/WG4の委員を務めており日本工業標準調査会から委託されてこの提案を行っております。また東工大の高島助教授からは、疲労試験機の開発と当該試験機によるカンチレバータイプ試験片の疲労試験の成果が紹介されました。これは、薄膜引張試験に次ぐ標準化アイテムとして当センターが経済産業省に提案しているものです。

午後は、当センターが受託し、今年3月に終了したNEDOの国際標準開発事業「マイクロマシン用材料の特性計測評価方法の標準化」の中で実施した薄膜標準試験片の開発と試験機の開発、並びにこれらの試験機による標準試験片のRRTの成果を報告し意見を交換しました。これには、RRTに関係した3大学、3企業、産総研およびこの国際標準化事業を推進する日本規格協会並びに第2回ワークショップ参加者の計24名が参加しました。当ワークショップは、IECの用語に関する活動を支持することや米国の薄膜残留応力試験などのプロジェクトを支援することなどを決め、次回の第3回ワークショップを来年アメリカで開催することを決めて終了しました。



◀標準化フォーラム第2回ワークショップ

